

# 「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」 ニュースレター 第01号

協議会事務局（中部地方整備局河川部）  
平成18年11月20日発行

## 【第1回作業部会結果報告】

- 開催日時：平成18年11月15日（水）13:30～17:30
- 開催場所：名古屋市中区三の丸 桜華会館 「松の間」
- 参加人数：80名



「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」第1回作業部会全体会議の様子

### ■「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」とは？

平成17年8月のハリケーン・カトリーナによる米国ニューオーリンズでの大規模な高潮被害を受け、わが国のゼロメートル地帯の高潮対策のあり方について「ゼロメートル地帯の高潮対策検討会」が設置され、わが国の高潮対策は如何にあるべきかが検討され、平成18年1月に提言が出されました。この提言には、三大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾）において地域協議会を設置することが位置づけられ、国、地方自治体、施設管理者等の関係機関が共同し、危機管理行動計画の策定することが求められました。

その提言を受け、濃尾平野ゼロメートル地帯においては、「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」を設置し、大規模地震発生後に、計画規模や現況施設の整備水準を超える規模の高潮・洪水が発生し、大規模浸水が生じた場合の被害を最小化するための危機管理行動計画を関係機関が共同して策定することとなりました。

### ■協議会の構成組織は？

陸上自衛隊第10師団、東海総合通信局、東海北陸厚生局、中部経済産業局、中部近畿産業保安監督部、中部地方整備局、国土地理院中部地方測量部、中部運輸局、岐阜県、愛知県建設部・海部建設事務所、三重県、名古屋市、海津市、養老町、津島市建設部、愛西市、弥富市、七宝町、美和町、甚目寺町、大治町、蟹江町、飛島村、桑名市、木曾岬町、川越町、名古屋港管理組合、四日市港管理組合、中日本高速道路(株)、中部電力(株)、東邦ガス(株)、中部地区ILC<sup>®</sup>-ガス連合会、西日本電信電話(株)名古屋支店、(株)NTTドコモ東海、日本放送協会名古屋放送局、日本赤十字社愛知県支部

＜オブザーバー＞

第四管区海上保安本部、岐阜県警察本部、愛知県防災局、愛知県警察本部、三重県警察本部、津島市総務部、稲沢市、東海旅客鉄道(株)、東海商工会議所連合会、中部経済連合会

## ■第1回作業部会の概要(その1)

### 1. 全体会議

協議会の名称が、「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」に決定されました。

※ネーデルランドとは低地地域という意味です。

話題提供として、名古屋大学大学院 辻本哲郎教授から「天変地異による大災害と危機管理」、財団法人河川情報センター 岡山和生理事から「ハリケーンカトリーナにおける避難行動について」と題して講演して頂きました。



名古屋大学大学院 辻本先生の講演



(財)河川情報センター 岡山理事の講演

### 2. 分科会

3つの分科会において、ワークショップ形式による議論がなされました。各グループの議論の結果は4ページにまとめました。

Aグループは、被害想定に関することを議論しました。ファシリテーターとして、大同工業大学の鷺見哲也助教授を迎え、議論を活発化させました。

Bグループは、情報伝達と水防活動に関することを議論しました。ファシリテーターとして、中部大学の武田誠助教授を迎え、議論を活発化させました。



Aグループ(被害想定)のワークショップの様子



Bグループ(情報伝達・水防活動)のワークショップの様子

## ■ 第1回作業部会の概要(その2)

Cグループは、広域避難支援と救助・救難活動に関することを議論しました。ファシリテーターとして、群馬大学の片田敏孝教授を迎え、議論を活発化させました。



Cグループ（広域避難支援・救助活動）ワークショップの様子



分科会とりまとめ会議の様子

### 3. 分科会とりまとめ会議&ウォッチング

総括ファシリテーター、各分科会ファシリテーター・司会、発表者による分科会とりまとめ会議を行い、各分科会（A、B、Cグループ）の結果を整理しました。（分科会の作業結果は、ニュースレターの最後のページに記載）

分科会とりまとめ会議を行っている一方で、各作業部会メンバーは、ウォッチングとして、NHKで放送された「BS フォーラム 複合型災害に備える」を視聴しました。

### 4. 全体会議

整理された各分科会報告（ワークショップの結果）について、各分科会の代表者から発表が行われ、メンバー全員に分科会での作業内容（議論した内容、次回以降の議題、他グループへの要望など）が共有されました。

最後に、群馬大学の片田先生から、総括を頂き、「今回は短い時間の議論であったが、様々な関係防災機関からの視点・意見が大変参考になり、議論できたことが有意義であった」と講評されました。



各分科会からの発表の様子



群馬大学の片田先生による講評

## ■各分科会(ワークショップ)の作業結果

<b>Aグループ (被害想定)</b>	<p>■議論した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○設定外力の明確化と理解について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は浸水時の被害の現象のみリストアップ</li> </ul> </li> <li>○被害想定について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・排水機能停止による浸水</li> <li>・破堤による船舶の流れ込み</li> <li>・交通機能の一齐停止（高速道路、橋、電光表示停止、浮遊物散乱による障害）</li> <li>・復旧拠点（ライフライン）</li> <li>・防災拠点</li> <li>・その他（船舶・コンテナの流出、危険物貯蔵施設の浸水）</li> </ul> </li> </ul>	<p>■次回以降のテーマと宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水位の定義（T.P.、N.P.）や海岸堤防高の関係がイメージしにくい           <ul style="list-style-type: none"> <li>対応策→水面高入りの横断図で議論</li> <li>対応策→水位の定義について解説</li> </ul> </li> <li>○河川氾濫を考慮するかどうか</li> <li>○次回は復旧の時間スケールも含めて議論する</li> </ul>
<b>Bグループ (情報伝達・水防活動)</b>	<p>■議論した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報形態について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難情報、高潮・浸水情報に分類</li> </ul> </li> <li>○避難情報について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所、経路、避難所収容人数等の情報が必要</li> <li>※これらの情報は、浸水開始の半日前に入手したい</li> </ul> </li> <li>○高潮・浸水情報について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階から、高潮・浸水予測情報を教えてほしい</li> <li>（台風の位置、規模、到達時間、潮位、浸水エリア、浸水場所、破堤箇所、破堤時間等）</li> <li>・リアルタイムの高潮・浸水情報が必要</li> </ul> </li> </ul>	<p>■次回以降のテーマと宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報は、事前・事中・事後に分類することが重要</li> <li>○住民に必要な情報と、行政として必要な情報とに分けて考える</li> <li>○情報の更なる細分化をしなければならない</li> <li>○各情報の意味を住民の方々にわかりやすく伝える。例えば、           <ul style="list-style-type: none"> <li>・高潮水防情報とは何か？</li> <li>・高潮・洪水の何がもっとも恐ろしいのか？</li> </ul> </li> <li>○回数が少なすぎる。次回の作業部会は、予め事務局が議題等を設定し、効率よく議論してはどうか？</li> <li>○避難場所の確保→Cグループへの要望</li> </ul>
<b>Cグループ (広域避難支援・救助)</b>	<p>■議論した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○概算避難者の確認を行った           <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で70万人</li> </ul> </li> <li>○避難場所について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域避難の必要性、大量収容施設の発掘必要</li> </ul> </li> <li>○活動拠点について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市100m道路の使い方</li> </ul> </li> <li>○避難の手段について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、鉄道、ボート</li> </ul> </li> <li>○意思決定・オペレーションについて           <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間経過によって意思決定が異なる。</li> <li>・意思決定の段階性の認識を共有化しておく。</li> <li>・危険度ランク毎の対応行動指南が必要</li> </ul> </li> </ul>	<p>■次回以降のテーマと宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高台に逃げるとして、その避難経路に使用する道路の交通容量があるかチェック</li> <li>○船の台数などの移手段のチェック</li> <li>○道路・鉄道・地下鉄の通行止め・運休のルールのチェック</li> <li>○広域避難を考えた地域防災計画の動向チェック（特に広域避難協定の実態調査）</li> <li>○避難・救助に及ぼす海からの被害拡大がどうなる→グループAへの要望</li> <li>○道路・鉄道・地下鉄の通行止め・運休について想定ではどうなる→グループAへの要望</li> </ul>